

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:68.

退院後訪問指導の有用性と課題の検討 ～特別養護老人ホームでの訪問を通して～

関本 泰子, 本間 美穂, 田中 理佳

退院後訪問指導の有用性と課題の検討

～特別養護老人ホームでの訪問を通して～

キーワード：ストーマケア 退院後訪問指導 特別養護老人ホーム 退院支援

○関本泰子 本間美穂 田中理佳

旭川医科大学病院 6階東ナースステーション

I. 目的

近年ストーマ造設患者の高齢化が進み、ストーマの自己管理が難しく家族支援が困難な症例は、社会資源導入や施設に入所する患者が多い。これまで、施設に入所するストーマ造設患者には、施設看護師にストーマケア（以下ケア）の指導を行っていた。しかし、在院日数の短縮により、施設側のケアの習熟度に応じた指導の日程調整が困難な現状があった。平成28年診療報酬が改定され、自宅のみならず施設においても退院後訪問指導料を算定することが可能になった。今回、特別養護老人ホームに入所する90歳代3名の患者に対し、退院後訪問指導を実施した。その有用性と課題を明らかにする。

II. 方法

無記名の自作質問紙により調査。退院後訪問指導を実施した3施設の看護師・介護士を対象とした。質問項目の回答は単純集計し、自由記載の項目はその意味内容の共通性・類似性をもとに分類しカテゴリー化した。

III. 倫理的配慮

研究の参加は自由意思で強制ではないことを文書で説明し、質問紙の返送により研究参加の意思があるとみなした。なお本研究は所属組織の倫理委員会の承認を得た。また、本研究は開示すべき利益相反はない。

IV. 結果

17名（3施設）中15名より回収。回収率88%。看護師7名、介護士8名。アンケート結果は表1に示す。

表1. アンケート結果 n=15

		看護師	介護士	全体
ストーマ経験	ある	7(100%)	5(63%)	12(80%)
	ない		2(25%)	2(13%)
	みたことはある		1(12%)	1(7%)
ストーマ研修会等の参加	有	3(43%)	1(12%)	4(27%)
	無	4(57%)	7(88%)	11(73%)
退院後訪問指導	良かった	6(86%)	7(88%)	13(87%)
	どちらでもない	1(14%)	1(12%)	2(13%)
退院後訪問指導難しい点	有	3(43%)	2(25%)	5(33%)
	無	4(57%)	5(63%)	9(60%)
	無回答		1(12%)	1(7%)

退院後訪問指導を良かったと感じた看護師の自由記載からは、ケアに関する「知識の再確認」「新たな知識の獲得」「スタッフ教育の機会」「退院前後のストーマ状況の把握」の4つが抽出された。介護士は、「ケアへの安心感」「疑問への解決」「知識の再確認」「患者理解が深まる」「継

続的な学習機会」の5つが抽出された。退院後訪問指導を受け難しかった点の自由記載からは、看護師、介護士ともに「入浴やケア時間の調整の困難さ」が挙げられていた。今後の希望・要望の自由記載からは、看護師から「トラブル時の窓口」「個別性の高いケアへの訪問」のニーズが抽出され、介護士からは、訪問指導の場が学習の機会であり「継続的な指導」へのニーズが抽出された。

V. 考察

退院後訪問指導は、看護師・介護士のニーズが高く、介護士の場合、ケア自体の知識や経験が少ないことから生じる学習ニーズの高さが挙げられる。さらに、実際にケアを見て習得する「ケアへの安心感」、ケアへのタイムリーな「疑問への解決」、ケアを患者背景と関連づけることで「患者理解を深め」「知識の再確認」をし、訪問毎の指導が「継続的な学習機会」となり、介護士にとって有用であったと考える。看護師は、退院後訪問指導が「新たな知識の獲得」「知識の再確認」「退院前後のストーマ状況の把握」の機会となり、介護士への「スタッフ教育の機会」を得られたことに有用性を感じていた。退院後訪問指導は、大学病院と施設間の他職種連携を図り、大学病院の看護師が持つ専門的な知識と技術を、ケアを提供しながら伝達することで、地域包括ケアシステムの推進に貢献する一助となることができると考える。

退院後訪問指導を行うことは、患者の生活に即したケアが実践できる機会となるが、患者の生活リズムに合わせた訪問調整とニーズに応じたコンサルテーションのあり方が今後の課題である。

VI. 結論

1. 退院後訪問指導は看護師・介護士ともにニーズが高い。
2. 退院後訪問指導の看護師にとっての有用性は「新たな知識の獲得」「知識の再確認」「退院前後のストーマ状況の把握」「スタッフ教育の機会」であった。
3. 退院後訪問指導の介護士にとっての有用性は「ケアへの安心感」「疑問への解決」「患者理解が深まる」「知識の再確認」「継続的な学習機会」であった。
4. 生活リズムに合わせた訪問調整とニーズに対応する適時のコンサルテーションのあり方が課題である。

参考文献 1. 海老菜穂子、他：ストーマ造設した患者の退院直後訪問実施報告 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 vol. 33 no.1 JAN.2017p268